

議長(山本 陽一郎君) 次に7番、木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) 今回は3点について質問させていただきます。

まず1点目であります。未婚者支援対策事業について、町長に質問いたします。

日本の晩婚化は1970年ごろから見られ始め、晩婚化や非婚化が大きな要因となって、1年間に生まれてくる子どもの数は、1970年代前半には200万人ほどであったのが、現在は半減しています。出生率は、低下が始まる1971年の2.16人から、2006年には約4割減の1.32人になっています。

このまま少子化が進めば、若い労働人口の減少及び消費市場の縮小につながります。また、高齢化が進むことで、年金・医療・介護などの社会保障費がふえ、国民全体の負担が増加します。

こうした結婚や出生率の状況に対して、厚生労働省は職場優先の企業風土の是正、仕事と子育ての両立のための雇用環境の整備など、少子化対策の方針を進めています。

当町でも医療費の中学生までの無料化、不妊治療費助成、そして今回の定住促進奨励金など、さまざまな人口増加策、少子化対策を実施していますが、愛知県東海市では、本年4月より本格的に未婚者支援対策事業に取り組むようであります。

事業内容としては、未婚者支援フォーラム開催事業、結婚力向上セミナー開催事業、地域で支援する組織づくり事業、出会いの場創出事業などです。具体的なものとして合同パーティの開催、文化行事やスポーツイベント型の出会いの場事業などです。

このようなことは以前は地域で世話を買って出る人がいたり、いろいろなサークルや青年団といったところが、自然にその役割を担っていましたが、それも遠い昔の話ではありません。

そこで質問であります。東員町としてそのようなイベントなど、出会いの場を創出する考えがないかをお聞かせいただきたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) 木村議員のご質問にお答えをいたします。

日本の総人口は急速に減少することが見込まれ、地方の将来は、極めて厳しい状況となることが予想をされております。今後なお一層少子高齢化が進展することが見込まれる

ことから、各自治体が人口増加を図る独自の施策を模索しているものの、対策に苦慮しているところでございます。

ご質問の未婚者支援対策は少子化問題とも密接な関係がございまして、全国的にも避けては通れない問題であります。未婚化・晩婚化が進行している背景には、仕事と家庭の両立、子育てなどに対するさまざまな不安心理があり、結婚、出産をちゅうちょさせているのではないかと推測されます。

そのような中、本町でも、従来のような保健・福祉の分野だけではなく、教育、住宅など幅広い分野が連携した対策として、幼稚園・保育園の一体化、中学生までの医療費の無料化や、定住促進事業などを行うことにより、子育てや福祉の充実、住環境の整備などを図ってまいりました。

また、未婚者支援対策の広域的な取り組みといたしまして、若い未婚者の方にこの地域のよさを知ってもらうよう、北勢線を出会いの場とした「お見合いイベント」を毎年実施しており、今年度は本町の市民活動支援センターに登録をし、結婚促進事業を支援しているNPO団体にも協力していただきました。

未婚者支援対策は少子化のもう一つの大きな課題であり、中長期的な視野で展開していかなければならない重要な施策であり、行政が補えない部分をNPO団体などの民間の力をおかりし、活用していくことにより、若者が結婚、出産に踏み出せる環境を醸成していくことが、今後の人口増加にもつながっていくと考えております。

よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) 先ほど言っていた北勢線のことですけど、それも重要な事業だと思いますが、近隣の者が北勢線の事業に参加するかというと、なかなか難しい面があると思いますので、それ以外のことを考えていただきたいなと。それはそれでやっていたくのは重要なことだと思いますが、それ以外のことを考えていただきたいなと思ひまして、東員町だけではなくて、桑名市やいなべ市や、あるいは木曾岬町といったところと連携して、そういうことができないかなと思います。いなべ市はいなべ市の議員で、こういう質問をしてくれないかというようなことも言ってありますし、桑名市の議員にも、そういうことを一回出してくださいと言ったんですが、東員町だけではなくて、この地域でそういうことを連携して考えていくということが重要だと思います。

今言われたNPO法人のところに委託するというのも必要でしょうし、企業に働きかけて労働者の福祉団体なんかで、そういう人に集まってもらって、そういう事業を幾つかイベントを組んでもらうということもいい方法ではないかなと、こういうふうに思いますので、予算をつけていただいて、連携してやっていただくといいかなと思うんですが、どう思われるでしょうか。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

東員町の現状というんですか、もともと私は合計特殊出生率が東員町は非常に低いということで、なぜ低いかということの原因というんですか、それを突きとめるというんですか、そんなことをさせてもらいたい、また、していかなければならないと思っております。

私の手元にも東海市の未婚者支援対策という資料を持っておるんですけど、東海市の現状等も、年齢別の未婚率等も上げていただいておりますけど、東員町の現状、年齢別の30代の男性とか30代の女性が今未婚の方が何パーセントぐらいあるんだとか、いろいろの調査をまずしないと、わからずに未婚化・晩婚化というようなことでいろいろのイベントを打ってみたって、なかなか突きとめられないと思いますので、私はまずそういう現状把握というんですか、それをきちっとして、そして何をしたらいいかということに入っていくかないと、なかなか実らないということで、そのようなことを今原課の方にも、いろいろ策をつくってもらいたいということを申し上げておるところでございますので、もう少し勉強をさせてもらいたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) 東海市もこの4月から本格的に始めるということで、東海市の議員と話をしていた時、1年ぐらい前でしたか、やるんだということで、1年ぐらいかけて現状調査をした。それで今年4月に本格的にやるというふうなことを言っておりましたので、東員町もぜひ現状把握から始めてやっていただきたいなと思いますので、よろしくお願いをいたします。

次に2点目の質問にいきます。

2点目は姉妹都市提携について、町長に質問をいたします。

以前の一般質問で、大台町や海外のドイツだけではなく、国内で友好親善交流をするところをふやし、テーマごとに交流を図ったらどうかと質問をいたしました。また、防災協定を

結ぶのに、万一大災害が起きた場合には、大台町もよいが、距離的に近いので相互応援ができないのではないかと質問しました。その時の答弁は、町益につながるものであれば検討しますということでありました。

そこで町長に再度質問いたしますが、姉妹都市提携先をふやし、テーマごと、例えばスポーツで交流試合をすとか、文化的なこと、子ども歌舞伎や第九など、いろいろなことで交流をしたらどうかと考えますが、どのように思われますか。

そしてもう1つは防災協定であります。県内よりは、災害時等における相互応援協定先を県外に求めた方がよいのではないかと思います。どのように考えてみえるのかをお聞かせいただきたいと思えます。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) 木村議員の「姉妹都市提携について」のご質問にお答えをいたします。

ご承知のとおり、本町は大台町と友好親善提携及び防災協定を締結いたしております。木村議員が申されるように提携先をふやし交流を促進する、また、災害時等の応援先を求めることの観点から、姉妹提携先をほかにも求めてはとのことですが、姉妹提携につきましては、本町に何かの縁があるところと友好親善交流がなされてきて結実するものであり、そのきっかけがないとなかなか難しいと考えます。

また、町益を念頭に置いての交流も、相互の交流に温かさが生じないのではないかと思います。

基本的には、よいご縁があれば積極的に交流を図ってまいりたいと考えるところですが、現在のところ、ほかにはないのが実情でございます。

先ほど第九の関係で申されました。確かに第九、小浜とかいろいろなところと交流が始まっておりますので、そこらも念頭に置きながら図っていったらいいかなと私は今思っております。

また、災害時の救援を他に求めるのも有効な手段ですが、まずは町民の力を結集し、みずから町を守る、防災に強い安心・安全なまちづくりを構築することが重要でございます。引き続き災害に強いまちづくりに努めてまいります。

よろしくご理解のほどお願いを申し上げます。

以上です。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝君。

7番(木村 宗朝君) 1つ目の姉妹都市提携といいますか、友好都市といいますか、今言われた第九ですね、それをきっかけに友好都市まで結びつける。なかなかきっかけがないと言われましたけど、それをきっかけにして、ご縁をこちらで積極的につくるといいですか、そうしないとなかなかこういうことは進みませんので。

桑名市も北海道ともやっていますけど、行田市ともやっています、1年おきに野球の交流試合をやったりしています。スポーツ・文化、あらゆる面でそういうことをやれば、町民がいろんな楽しみとありますか、豊かになるのではないかなというふうに思います。

特に私の思いは、これもまた昔の話をして申しわけないんですけど、青年団のころに三重県連合青年団が中国、ドイツ、フィリピン、ベトナム、ソ連、そこへ海洋青年大学とか希望の翼といって、どんどんと若い者を海外に派遣をした。私が行った時は三重県で160人でしたので、なかなか160人も集まらない。田んぼを売って、その穴埋めをした青年団、東員町はおりませんでしたけど、田んぼを売って資金を出したという者も三重県にありました。

私も青年団の団長をやっている時に、そういうことをやりたいなと思ったんですけど、そういうリスクを負うよりも、国内でそれを求めたらいいなという考えがありまして、国内研修というのをやりました。私の時は栃木とか群馬の青年とやりました。

それからずっと若い人が国内の人と交流をしたという経緯があって、東員町がやる場合は個人的にお金を負担するという、穴埋めをするということはありませんけれども、わざわざそういうことをしなくても、国内でそういうことをやったらどうか。何カ所かそういうところがあって、そういう人たちと日本の国内で交流をしたら、東員町の小学生も中学生もそういうことができたらいいなと。大台町に限らず、そういう場所をふやしたらどうかと、こういう思いがあって質問をしておるんです。

これは積極的に、ご縁があったらと言っておっても、なかなかご縁ができないと思いますので、積極的にお願いしたいなという思いで質問をしておるんですけど、どうでしょうかね。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

積極的にということはよくわかります。実は第九の関係は小浜とか、近々は鎌倉とも交流が始まっております。私どもの中では、交通の便のいいところとか、温泉があった方がいいとか、海岸端は津波の関係があるので、逆に大変なことになるわなというようなことで、いろいろ話はしております。積極的に交流が始まっているところ、第九の後でも交流してますので、そこのときにチャンスをつかんで、そんなような話も今後はしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) それも行政だけでやるのではなくて、町民の人に、どこかいいところがあったら教えてねというようなことを働きかけて、こことやたらどうやというようなことも募集してほしいなと思いますし、もしそれが始まると、温泉があったらいいなどうのこうのと、こちらが思っているのと同じように、向こうから来てもらうときに、宿泊施設もないのかなというような話になると思いますので、やっぱりそれも必要やなというようなことで、そういうものも東員町にもつくるべきかなと、これは思ってますが、まず交流から始めていただきたいなと思います。

あと一つは防災協定の関係であります。私は以前に、大台町でもいいが、余りにも近いのではないかと質問した時に、その後、余り反応がなかったので、私の考えが間違っておるのかなと、こういうふうな思いをしておったんですが、この間、愛知県の東浦町の議員と話をした時に、うちは石川県の野々市町と災害の相互応援協定を結んだというような話をしてました。

その目的が、東浦町は県内では隣接5市4町、それから刈谷市との間に協定を締結しているが、大規模な災害及び緊急対処事態を想定した場合、県外の市町村との広域的な相互応援が必要になると、こういうふうな目的が書いてあると。

そして選定理由として、石川県野々市町は太平洋側の本町と反対側の日本海に位置し、大規模災害時における被害の大小関係が相反すると思われる地理関係にある。双方の応援体制がとりやすい。交通関係は東浦町から車で約3時間半である。こういうような選定理由で協定を結んだということを言っておりましたので、私の何年か前に言った、大台町は余りにも近いのと違いますかというような質問は、このことを聞くと合っているのかなと思います。

東員町も日本海側のどこかと、あるいは友好親善都市を結んだところとやる。余り近いところでなくて、そういうところとやるのがいいのではないかなと、こういうふうに思うのですが、このことについてもお答えをいただきたいと思えます。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) ありがとうございました。

災害等については、余り近いところと同じ災害ということになってますので、少し離れたというんですか、そうなってくると小浜がいいかわかりませんが、今後教えていただいたことを十分協議をして進めさせていただきますので、よろしくをお願いをしたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) よろしくお願ひします。

それでは3点目の質問にいきます。

農道の通行規制について、町長に質問いたします。

地元の要望をこの場で質問するのは、いわゆるどぶ板議員と呼ばれそうで、一般質問で取り上げるのは極力控えておりますが、農家の人が困っていますので、あえて質問いたします。

農作業時には軽トラックやコンバインなどを田んぼの横にとめて作業をいたします。他の車両からしてみると、路上駐車ではないかと言われるかも知れませんが、どう考えても、そのようにしないと農作業ができないと思います。しかも、そこは農道であります。場所は桑名市大仲新田のスーパーサンシ付近の農道であります。買い物時の進入路に利用されています。

そこでは農繁期になると、駐車してある軽トラックやコンバインと、通行できない買い物時の通行車両でトラブルになることがあるそうでもあります。そこで、農繁期だけでも農道の通行を規制してもらおうとか、何らかの対策を考えてもらえないかということでもあります。町長の考えをお聞きします。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) ご質問の農道の通行規制について、お答えをいたします。

まず、農道の通行規制と言いましたけど、ご質問の道路は、平成元年に町道穴太446号線として路線の認定がされております。主要地方道菰野東員線の交差点に交わることから、町道穴太弁天山線の迂回ルートとしても、一般車両の利用者が多くなってまいりま

したが、県道交差点から約320メートルの区間は、舗装幅員が約3メートルで、両側には農地が広がり、農作業に従事するための車両なども利用されていることから、農繁期等には特に交通量が多くなっております。

解消を図るため、以前にも道路の拡幅の提案をさせていただきましたけども、事業着手には至りませんでした。

農作業時には、車両などを道路に停車することになり、一般車両の通行の障害となることから、交差点付近には耕作関係の方々によりまして、農作業車優先の立て看板を設置し、一般の利用者に周知を行っていただいておりますが、公衆用道路でございますので、一般車両を完全に通行止めすることはできないことから、今後も農作業等への協力の啓発看板を設置するなどの対応を図ってまいりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

できましたら拡幅の工事を、よろしく願いを申し上げたいと思います。

以上です。

議長(山本 陽一郎君) 木村宗朝議員。

7番(木村 宗朝君) 町道というのは聞いておりましたので、あえて農道と言ったのですが、町道になっているなどは聞いておったんですけど。最初は農道で道路をつくったということでもいいのですか。それが途中で平成元年に町道になったということですか。

地域の方は、そこは農道だという認識がありますので、両方の言い分はわかるんですが、一番いいのは看板をもうちょっと大きくしていただくなり、それよりも道路の拡幅をお願いして、スムーズに通れるようにしていただくのが一番いいと思いますので、これは穴太のところに限らず、ほかの地域でも聞いてますので、同じ状況になっていると思います。そういうところを早急に対策をお願いしたいなと思います。

穴太のところは町長も言われるように、ぜひとも拡幅をお願いしたいなと思いますので、よろしくお願いをいたします。

以上で終わります。